

- [くらしの便利帳](#)
- [地域・コミュニティ](#)
- [ぶらり松本](#)
- [マツモトダイスキ](#)
- [市のあらまし](#)

現在の位置：[Top](#) ✕ [災害・防災](#) ✕ [防災](#) ✕ [国・県の地震調査結果](#)

- [防災マップ](#)
- [松本市地域防災計画](#)
- [松本市水防計画](#)
- [自主防災活動](#)
- [松本市災害時要援護者支援プラン【ガイドライン編】](#)
- [松本市の避難場所](#)
- [焼岳火山防災マップ](#)

- [災害対策備蓄品一覧](#)
- [地震10か条](#)
- [国・県の地震調査結果](#)
- [被災後のお問い合わせ](#)
- [各家庭での準備](#)
- [安全な避難](#)

国・県の地震に関する調査結果の概要

[2010年10月18日 更新]

地震には、地球の表面を覆う巨大な海のプレート(岩盤の板)が、陸のプレートに沈み込んで発生する東海地震などの海洋型地震と、阪神・淡路大震災のようにプレート内の急激なズレによって発生する内陸型の地震があります。

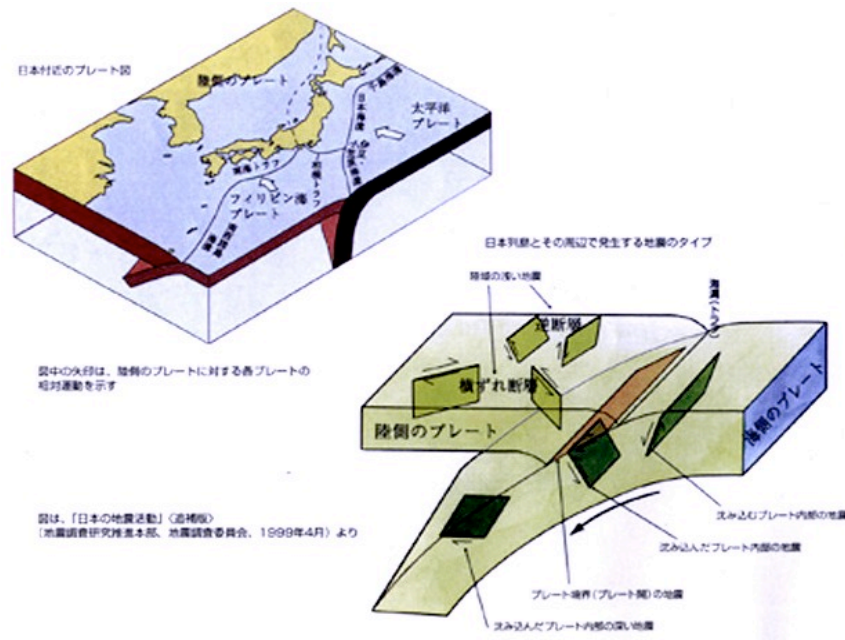
長野県内には、地震の危険度が高いとされている「糸魚川―静岡構造線活断層帯」があり、トレンチ調査や古文書などの結果、平成8年、国では、この活断層が過去に大地震を起こした可能性が高いと分析し、「今後、数百年以内にマグニチュード[◆][ド8程度の地震が発生する可能性が高い]との評価を公表しました。

さらに平成13年には、地震発生の確率を次のように計算しました。
30年以内に14%、50年以内に23%、100年以内に41%

この結果を受けて、県では、平成12年から13年に「長野県地震対策基礎調査」を実施し、「糸魚川―静岡構造線活断層帯」を震源とする地震の具体的な被害を数値として公表しました。(死傷者、建物、ライフラインなど)

これにより、市町村では、地域防災計画の見直しなどの防災対策を進めています。

■ 日本付近のプレート図



図(左上)

日本付近のプレート図

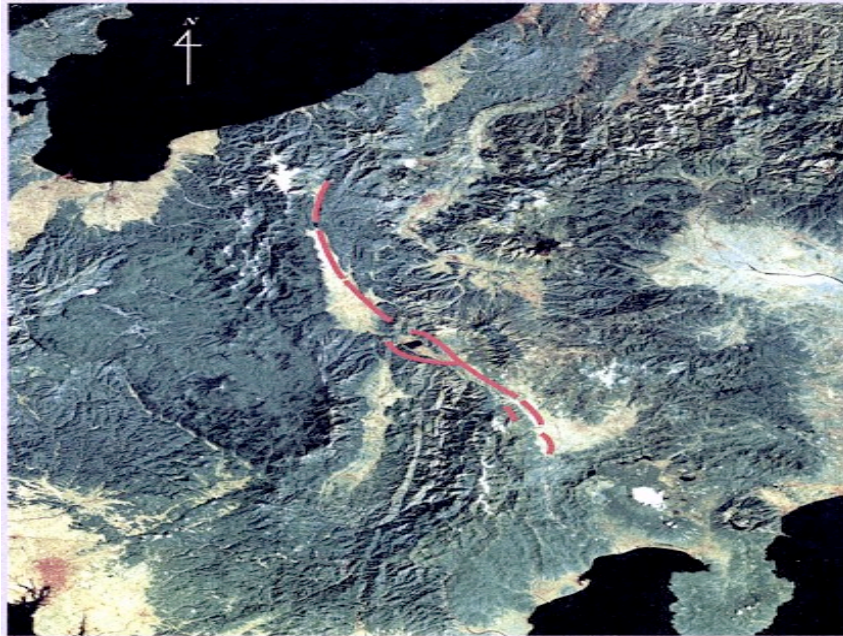
図(右下)

日本列島とその周辺で発生する地震のタイプ

※ 図は「日本の地震活動」《追補版》

(地震調査研究推進本部 地震調査委員会 1999年4月)から

■国(地震調査研究推進本部:地震調査委員会 所管:文部科学省)



○北部

白馬、大町を含む領域

神城断層、松本盆地東縁断層から構成

○中部

松本、塩尻、諏訪、茅野、富士見、小淵沢を含む領域

牛伏寺断層、岡谷断層群、諏訪断層群、釜無山断層群から構成

○南部

白州断層、下円井断層、市ノ瀬断層群から構成

2 活断層調査

昭和58年から東大、独立行政法人産業技術総合研究所(旧経済産業省地質調査所)、電力中央研究所などにおいて、トレンチ調査、ボーリング調査などを進めています。

3 地震活動に関する評価

○平成8年9月11日

- ・糸魚川ー静岡構造線活断層帯(上図の赤い線)
- ・白馬から小淵沢までの区間で約1,200年前に活動し、地震の規模はマグニチュード8程度であった可能性が高い
- ・牛伏寺断層を含む区間で、約1,000年おきにマグニチュード8程度の地震が発生してきた可能性が高い
- ・牛伏寺断層を含む区間で、現在を含めた今後数百年以内に、マグニチュード8程度の地震が発生する可能性が高い

○平成13年5月25日

・強震動評価部会

松本地域は、震度6強から7

穂高地域は、震度6弱から6強

安曇地域は、震度5弱から5強

・全国を概観した地震動予測地図の作成に向けた強震動評価を行う一環として、その評価方法について、当該断層帯を事例として取り上げ、中間的な検討結果をまとめる。

- ・糸魚川ー静岡構造線活断層帯(北部、中部)全体が同時に動くものと仮定
- ・試算の評価地点を、安曇、松本、穂高の3地点とし、統計的グリーン関数法で計算

○平成13年6月8日

・糸魚川―静岡構造線活断層帯の地震発生確率

30年以内に14%、50年以内に23%、100年以内に41%

・過去の地震発生経過から最適な評価手法を適用し、長期評価が公表されている活断層に適用して地震発生の確率を計算

・参考として

生涯の内、交通事故の確率が約4.0%

火災発生の確率が約0.05%

4 地震調査研究推進本部

阪神・淡路大震災を契機に、地震に関する調査研究の推進を目的に体制を整備するため、地震防災対策特別措置法に基づき、当時の総理府に設置

同本部は、地震に関する調査研究に関し、施策の立案、観測計画の策定、調査結果の収集・分析などを行います。本部の構成は、文部科学大臣を本部長に、関係行政機関の事務次官クラスを本部員にして組織

・政策委員会と地震調査委員会を設置

地震調査委員会は、気象庁、国土地理院、大学などの関係機関の観測結果の分析、評価を行う。

5 GPS連続観測システムについて

○国土地理院では、地震予知・火山噴火予知の調査研究を目的に広域地殻変動の監視及び各種測量用の基準点として利用するため、全国に約25キロメートル間隔で1224点の「電子基準点」を設置しています。

○電子基準点は、高さ5メートルのステンレス製タワーにGPS衛星からの電波を受信するアンテナと受信機が内蔵された構造になっており、得られたデータは、24時間体制のリアルタイムで茨城県つくば市の国土地理院に収集されます。

○松本市内の電子基準点

・箇所数 9カ所

・対象の活断層 牛伏寺断層、松本盆地東縁断層

・システムの稼働 平成10年4月1日から

・設置費用 1基 約1,000万円

○観測されたデータは、国土地理院から、毎月、松本市へ情報提供されております。(今のところ特段の変化はありません。)

地殻変動に特別な異変が見られる場合は、ただちに連絡を受け、必要な対策を講じることとしています。

■ 県(危機管理室 危機管理・消防防災課)



1 はじめに

昭和59年9月に発生した長野県西部地震(マグニチュード6.8、死者29名)では、王滝村を中心として人命や家屋、道路に大きな被害が生じました。長野県では、この災害を教訓として昭和60年度から61年度に長野県地震対策基礎調査を実施し、地震防災対策に努めています。

その後、18年が経過し、社会情勢が大きく変化する中で、防災対策の整備も順次進められてきましたが、阪神・淡路大震災（マグニチュード7.3、死者6,400名余り）など活断層を震源とした直下型地震による甚大な被害が、住民生活に多大な影響を与えることをあらためて認識させられました。

こうした状況において、糸魚川―静岡構造線活断層帯をもつ長野県として平成12年度から13年度にかけて、最近の科学的知見に基づく地震現象及び被害を想定し、今後の地震防災対策の基礎資料とするため、長野県地震対策基礎調査を実施しました。

2 調査の概要

○長野県地震対策基礎調査専門委員会

学識経験者による委員会を設置し、専門的な立場から指導・助言を行う

（大学教授、気象庁職員、地域地盤環境研究所など）

○調査内容の留意点

・想定地震

糸魚川―静岡構造線活断層帯を含む5つの内陸型地震と東海地震

・地震動の想定

震源は推定であり、地盤状態などによって想定する震度は、かなり幅のある値となる。

・基礎データ

500メートルメッシュごとの地盤モデルで設定しており、局所的な地盤変化までは表現していない。

・被害想定方法

過去の地震事例からの経験式や、現時点での理論式を用いて被害量を計算（今後、修正され得るもの）

・想定結果の表現

500メートルメッシュの代表値または平均値で表現、状況によって数値の増減あり

・調査対象外の災害要素

被災者の精神的なダメージ、コミュニティの破壊、生活環境の悪化などの数値化できない被害も発生する。

3 長野県の地形・地質・地盤

○地形

飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈の間に松本盆地、長野盆地、諏訪盆地、伊那谷などが細長く分布、県内の活断層は、これらの山地、盆地の境界付近に多く分布している。

糸魚川―静岡構造線活断層帯は、北部(小谷村から松本)、中部(松本から山梨)、南部(山梨)に分かれ、活動度はA級である。

○地質

糸魚川―静岡構造線と中央構造線により大きく3つに分かれる。

・西南日本内帯

糸魚川―静岡構造線の西側、中央構造線の西側(飛騨山脈、木曾山脈)先第三紀の古期岩類が広く分布

・西南日本外帯

中央構造線の東側(赤石山脈、佐久山地)先第三紀の古期岩類が広く分布

・フォッサマグナ地域

糸魚川―静岡構造線の東側、新生代の堆積岩類・火山岩類が分布

○地盤

県の浅部地盤は、松本盆地、長野盆地、諏訪盆地、伊那谷に細長く分布する。

・松本盆地、長野盆地、伊那谷

厚さ10メートルから30メートル程度の砂質土または礫質土が主体

・諏訪盆地

厚さ25メートルから50メートル程度の腐植土、粘性土、砂質土

・山間低地

厚さ5メートルから10メートルの層

固結層(深部地盤)の分布は、糸魚川―静岡構造線の南西は深成岩類・中古生層、北東は第三紀の堆積岩類、第四紀の火山岩類

4 想定地震

○糸魚川―静岡構造線(北部)

マグニチュード8.0、長さ80キロメートル、幅20キロメートル
小谷村から松本市

○糸魚川―静岡構造線(中部)

マグニチュード8.0、長さ80キロメートル、幅17キロメートル
穂高町から松本市から富士見町

○信濃川断層帯

マグニチュード7.5、長さ43キロメートル、幅21キロメートル
飯山市から長野市

○伊那谷断層帯

マグニチュード7.9、長さ68キロメートル、幅20キロメートル
南箕輪村から浪合村

○東海地震

マグニチュード8.0、長さ115キロメートル、幅70キロメートル

○阿寺断層系

マグニチュード7.9、長さ62キロメートル、幅17キロメートル
王滝村から岐阜県

5 地震動等の予測

震度、液状化、地震土砂災害(斜面崩壊)

6 物的・人的被害想定

建築物被害、出火・延焼被害、人的被害、交通施設の被害(道路施設、鉄道施設)、ライフラインの被害(上水道、都市ガス、下水道、電力)、通信施設の被害(電話)

7 松本市の被害数値

(糸魚川―静岡構造線:中部、マグニチュード8.0、震度7)

○建築物被害	全壊または半壊	39,497棟
○出火・延焼被害	焼失棟数	3,830棟
○人的被害	死傷者、避難者	106,867人
○水道被害	断水	75,541世帯
○ガス被害	供給停止	25,835世帯
○電気被害	停電	33,186世帯
○電話被害	回線不通	107,569回線

※上記の数値は、合併前の松本市の数値を表しています。

[▶長野県ホームページ\(地震対策基礎調査事業について\)](#)

問い合わせ先

[部課名] 総務部 危機管理室

[連絡先] 電話0263-33-1191、FAX0263-33-1011

[▲このページの先頭に戻る](#)

Copyright (C)Matsumoto City 1997-2005 All rights reserved.